

Man of La Mancha'および'The Impossible Dream' (ミュージカル「ラ・マンチャの男」より)

【解説】(Wikipedia 等から抜粋、編集)

ミュージカル「ラ・マンチャの男」(Man of La Mancha) はセルバンテスの小説『ドン・キホーテ』をもとにした作品。1965年にブロードウェイで初演され、ニューヨーク演劇批評家賞などを受賞、5年6ヵ月のロングラン公演を記録した。松本幸四郎が染五郎時代の1970年にブロードウェイにわたって主役を英語でもこなし、その熱演は今や伝説となっている。1972年にはピーターオトゥール、ソフィアローレン主演により映画化もされた。

脚本は、セルバンテスが小説『ドン・キホーテ』を着想したのは、セビリアで入牢中であったという事実をもとにしている。セルバンテスと牢獄の囚人たちの現実、彼らが演じる劇中劇における田舎郷土アロンソ・キハーナの「現実」、そしてキハーナの「妄想」としてのドン・キホーテという多重構造となっている。

舞台は中世のスペイン。劇作家ミゲルデ・セルバンテスはカトリック教会を冒涇したという疑いで逮捕、投獄される。牢獄では盗賊や人殺しなど囚人たちがセルバンテスの所持品を身ぐるみはがそうとする。セルバンテスは、自分の脚本を守るため、「ドン・キホーテ」の物語を牢獄内で演じ、囚人たちを即興劇に巻き込んでいく。

本作品のタイトル曲が「Man of La Mancha」(ラ・マンチャの男)である。また、「The Impossible Dream」(見果てぬ夢)は屈指の名曲と言われ、本作品のテーマとして、中盤でドン・キホーテが歌い、ラスト(牢獄内の即興劇が終わり、セルバンテスと従者が現実の審判の場に喚問され、階段をのぼって行く場面)では、囚人たちからわき起こる感動的な大合唱として繰り返される。

1. Man of La Mancha(ラ・マンチャの男) (網掛けは繰り返し部分)

【詩および日本語訳例】(<http://imhere8128.seesaa.net/article/95130111.html> より転載。一部順序入れ替え・追記等あり)

Hear me now, oh thou bleak and unbearable world !	よく聞け、荒涼たる汚れ果てし世の中よ！
Thou art base and debauched as can be;	汝はこのうえなく卑劣であり墮落している。
And a knight with his banners all bravely unfurled	ここにひとりの騎士が、堂々と旗を翻して
Now hurls down his gauntlet to thee !	汝に戦いを挑むのだ！

I am I, Don Quixote,	私こそ、誰あろう、ドン・キホーテ
The Lord of La Mancha,	ラ・マンチャの騎士。
My destiny calls and I go;	運命(さだめ)の命ずるままに、私は行く。
And the wild winds of fortune will carry me onward,	運命の嵐が、私を前進させるであろう
Oh whithersoever they blow.	ああ、嵐がどんなに吹き荒れようと。

Hear me, heathens and wizards and serpents of sin !	聞け、邪教徒よ、魔術師よ、罪深き人々よ！
All your dastardly doings are past;	もはや卑劣な行為は許されない。
For a holy endeavor is now to begin,	聖なる戦いが、今、はじまるのだ
And virtue shall triumph at last !	そしてついには、美德が勝利を収めるであろう。

I am I, Don Quixote,	私こそ、誰あろう、ドン・キホーテ
(以下、上記網掛け部分繰り返し、略)	

Whithersoever they blow,	嵐がどんなに吹き荒れようと
Onward to glory I go !	栄光を目指して、私は進むのだ！

I'm Sancho! Yes, I'm Sancho !	私はサンチョ、私はサンチョだ！
I'll follow my master till the end.	地の果てまでも、私はご主人に従うのだ。
I'll tell all the world proudly,	私は世界に向かって、誇らかに名乗りをあげよう
I'm his squire! I'm his friend !	私は彼の従者だ、と。私は彼の味方だ、と。

On the trumpets of glory now call me to ride.	栄光のラッパが出陣の時を告げている
Yes, the trumpets are calling to me.	そうだ、ラッパが呼んでいる
And wherever I ride, ever staunch at my side,	そして私がどこに行こうとも、忠実この上無き
My squire and my lady shall be!	従者と私の姫が必ず私とともにいるのだ！ (以上4行追記)

I am I, Don Quixote,	私こそ、誰だろう、ドン・キホーテ
(以下繰り返し、略)	
Onward to glory I go!	栄光を目指して、私は進むのだ！

2. The Impossible Dream(見果てぬ夢)〔詩および日本語訳例〕(諸サイトの翻訳例を参考に試訳)

(ソロ) (網掛けは繰り返し部分)

To dream the impossible dream,	見果てぬ夢を見続け
To fight the unbeatable foe,	かなわぬ敵と戦い
To bear with unbearable sorrow,	耐えがたき悲しみに耐え抜き
To run where the brave dare not go;	勇者さえもあえて行かないような場所に向かう。

To right the unrightable wrong,	正し難い悪を正し
To love, pure and chaste, from afar,	遠くから純粋な穢れのない愛を注ぎ
To try, when your arms are too weary,	腕が疲れ果てても力を尽くし
To reach the unreachable star.	届かぬ星をつかもうとする。

This is my quest to follow that star,	これが私の冒険の旅、星を追い求め
No matter how hopeless,	どんなに絶望的であっても
No matter how far,	どんなに遠くにあっても
To fight for the right	正義のために戦い
without question or pause,	疑うことも躊躇することもなく
To be willing to march	喜んで向かっていく
into hell for a heavenly cause!	神々しい大義のためには地獄へさえも！

And I know, if I'll only be true	そして私にはわかる、もし自分が
to this glorious Quest,	この栄光ある冒険の旅に忠実でさえあれば
That my heart will lie peaceful and calm	私の心は平安に満たされ穏やかものとなるだろう
when I'm laid to my rest.	私が永遠の眠りにつく時。

And the world will be better for this,	そしてこのことで世界はきっと良くなるだろう
That one man,	一人の男が
scorned and covered with scars,	軽蔑され傷にまみれても
Still strove with his last ounce of courage	勇気をふりしぼり最後まで力を尽くしたことで
To reach the unreachable stars!	届かぬ星をつかむために！

(コーラス)

To right the unrightable wrong (以下 when I'm laid to my rest まで上記網掛け部分繰り返し、略)

To reach the unreachable star,	届かぬ星をつかむのだ
Though you know it's impossibly high,	その星がとてつもなく高いところにあるとわかっていても
To live with your heart striving upward	上に向かって力を尽くす心を持ち続けるのだ
To a far, To a far,	遠い、遠い
To a far unattainable star!	果てしなく遠くにある星に向かって！

以上(文責：後藤 2010.9)